

幼稚園教育要領における望ましい活動から幼児の主体的な活動への変遷

—高杉自子の保育思想に着目して—

○鳥居希安(東京家政大学大学院生)* 戸田雅美(東京家政大学)

1. 問題の所在と目的

平成元年の幼稚園教育要領の改訂は、戦後において最も大きな改訂と言われ、特徴としては、六領域から五領域への変更、「望ましい経験や活動」がなくなったこと、環境による教育という視点の明確化である*(1)(2)また、当時の改訂関連の資料は森上史朗、高杉自子の名が多く見られる。特に、当時文部省にいながら改訂に関わった高杉が、その中心的人物の一人であることには異論がないだろう。高杉は改訂前に小学校と幼稚園、両方の実践を経験している。その自らの経験から幼児期にふさわしい学びの在り方を模索し、主体活動としての遊びを中心とした保育の重要性を説いてきた。

本研究の目的は、平成元年における幼稚園教育要領の改訂の特徴の一つである「望ましい活動」に焦点をあて、改訂前後における違いを明確化し、同時に高杉が改訂前の状況をどう捉え、保育の在るべき姿を模索したかを文献と資料を中心に明らかにする。

2. 研究の方法

当時の文献や資料の検討*(3)と「幼児と保育」カリキュラム表の比較検討を行う。高杉の思想を知るために「幼稚園教育大全」を引用し考察を加える。

3. 分析結果

まず、当時における望ましい経験と活動とは、どのようなものだったのか。「幼児と保育」(1966年4月号)では、月間指導計画として領域別に事項とねらい、そして幼児の活動、指導の要点と項目分けがされている。この表を見る限り、領域別に幼児の活動を決め、教師は領域別のねらいをそれに相当する活動を決めて指導をしていたと読み取ることができる。当時は、ねらいを達成するためにふさわしい活動、すなわち「望ましい活動」を計画として配列することによって保育が展開されていたと考えられる。

それが、平成元年後の「幼児と保育」(2005年4月号)の月別計画表を見ると、改定前のような配列された望ましい活動はなくなっており、改訂前と改訂後の望ましい活動は変わったことが読みとれる(資料1参照)

このような計画の特徴の違いの背景として、平成元年の改訂前の幼稚園教育要領(昭和39年)を見ると、第一章「総則」の教育課程編成の項目では¹⁾「望ましい幼児の経験や活動を選択し配列して…」(下線筆者)と明記されており、第二章「内容」では領域別のねらいとして、具体的な活動そのもの⁽²⁾健康(5)すべり台、ぶらんこなどで遊ぶなど)としての記述が

多く見られる。そのため、領域のねらいを達成するためには、内容にあるような「望ましい活動」を設定し計画的に配列し、指導すると捉えられていたとしても不思議ではない。

しかし、高杉はその当時の状況は、誤解によって生じたものと考えていた。当時の状況を誤解によるとらえた根拠として、³⁾「現場を経験し、幼児と毎日生活をともにした私自身の実感から言えば、何はともあれ、幼児の活動そのものが充実していなければならないと思うのである^①。即ち、「望ましい」というのは、坂本彦太郎氏が幼児教育概説で述べられているように、「幼児の活動そのものとして充実していること自体をさすのが一義的である」^②が望ましいという意味であり、その幼児にとってまず望ましくなければならない^③と思うのである。」(下線筆者)と述べている。高杉は昭和39年度要領作成に携わった坂本の思想を引用しながら(下線②)、本来は「望ましい幼児の経験や活動」とは、幼児自身が望む活動であり(下線部③)、単なる経験や活動という意味にとどまらないことを述べている(下線①)。

加えて、高杉はこうした誤解を生んでしまった背景として、⁴⁾「大人からみた場合の、しかも小学校以上の考え方をそのままおろしてみた同じ体系を作ることが進歩であるという考え方が蔓延している幼児教育界の体質」と述べており、それは小学校と幼稚園における実践経験があった高杉だからこそ、小学校のような活動をすることが進歩であるという当時の幼児教育界に対して批判的にならざるを得なかったのだろう。

高杉が小学校の指導経験を持ち、幼稚園において幼児という存在に出会う実践経験をもっていたからこそ、小学校に似た「望ましい活動」の羅列は、幼児にはふさわしいとは言えないという実感があったと推察される。その結果、高杉に関わった平成元年の改訂では、坂本の本来の思想を生かし、かつ小学校の体系をそのまま下すことを進歩とするような誤解が生じないように、その在り方を模索し作成したと考えられる。

※人間生活総合研究科 児童学児童教育学専攻
資料1と※(1)(2)(3)に書かれている参考文献については当日資料として配布する
引用文献1)2) 幼稚園教育要領(昭和39年告示)
3)4) 高杉自子(昭和59年)『幼稚園教育大全第三巻』